

体型に対する現実と認知のギャップ

1230417 上野 梨花

指導教員 小谷浩示

研究背景

現在、人々はインターネットを使って自動で BMI を簡単に調べることができる。自分の身長と体重さえ知っていれば、人々が簡単に調べることができるようになっており、自分の体型も確認しやすい。体型を認知することは健康寿命にとって重要ではないだろうか。そこで、自分の体型が簡単に調べられる機会があるなかで、人々は自分の体型をどのくらい認知しているのだろうか。

研究目的

本研究では、体型の認知に着目し、BMI を簡単に調べられる今、人々は自分の体型をどのくらい認知しているのか、体型に関する現実とそのギャップについて研究を行う。

研究方法

Qualtrics を使用し、質問票調査を行った。Wojciech et. al (2022)が行っているデータ収集手法に基づいて質問票の内容を作成し、統計要約、統計学による検定 (Kappa 統計量や χ^2 乗統計)、ロジット回帰分析等を実施した。

分析結果

kappa 係数から、男女間、そしてすべてのサンプルを見ても、自分の体型を正しく認識できていないということが示された。また回帰分析から、student、H_income、Family_Structure、Living_Staatus、Smoking の変数が統計的に有意であると示された。

考察・結論

Kappa 係数の結果からは、男女間、そしてすべてのサンプルを見ても、自分の体型を正しく認識できていないという結果が得られた。特に男性よりも女性の方が自分の体型を正しく認識できていないという結果になった。また、ロジット回帰分析からは、student、H_income、Family_Structure、Living_Staatus、Smoking の変数が統計的に有意であると示された。この結果から自分の体型を正しく認識しているかどうかは、日々の暮らしによって影響を受けるということが示された。